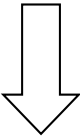
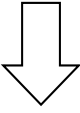





雑草イネによる赤米混入被害を 軽減するための総合対策チェックリスト

対策項目*	目的**			
	A	B	C	D
チェック1. 雑草イネの種子脱落前から収穫までの徹底した防除				
 <input type="checkbox"/> ★株元から抜き取る	○	○	○	
<input type="checkbox"/> ★穂を刈り取る場合は再生する遅れ穂も注意して抜き取る	○	○	○	
<input type="checkbox"/> ★数日間あけて収穫前まで抜き取りを繰り返す	○	○	○	
<input type="checkbox"/> ★抜き取った株や穂は畦畔や圃場付近に放置せず、焼却等で確実に処分する		○		
<input type="checkbox"/> 作業時の靴や衣服に付着した籾も確実に処分する		○		
<input type="checkbox"/> 抜き取った雑草イネの特徴（出穂期、草丈、芒・ふ先色の有無等）を記録する				○
チェック2. 収穫までに周辺や地域内を精査				
 <input type="checkbox"/> ★発生圃場と隣接する圃場を精査する		○	○	○
<input type="checkbox"/> ★同じ生産者の圃場を精査する		○	○	○
<input type="checkbox"/> 作業機械を共用する圃場を精査する		○	○	○
<input type="checkbox"/> 同じ種籾や苗を植えた圃場を精査する		○	○	○
<input type="checkbox"/> 同じ地域の生産者に雑草イネの発生を伝えて、注意喚起する		○	○	
チェック3. 雑草イネ種子の拡散を防止				
 <input type="checkbox"/> ★雑草イネ確認圃場の作業は、未確認（未発生）圃場の後に実施する		○		
<input type="checkbox"/> 雑草イネ確認圃場では、作業後の機械の洗浄を徹底する		○		
チェック4. 収穫後は脱落種子の死滅促進				
 <input type="checkbox"/> ★収穫後は耕起せず、低温による種子の死滅と鳥類等による補食を促す		○		○
<input type="checkbox"/> ワラなどで土壌表面を覆わない		○		○
<input type="checkbox"/> 冬季温暖な地域の湿田では、耕起により種子の死滅を促す		○		○
チェック5. 収穫物の精査と赤米除去				
 <input type="checkbox"/> ★未確認圃場からの収穫物と一緒にしない		○		
<input type="checkbox"/> ★玄米に調整後、色彩選別機で赤米を除去する		○		○
<input type="checkbox"/> 赤米混入を精査し、発生源や履歴等の確認のために赤米の一部を保存する			○	○
チェック6. 翌年からの作付けや栽培方法を検討				
<input type="checkbox"/> ★大豆等の畑作物を作付けし、イネ科対象除草剤や中耕等で防除する		○		○
<input type="checkbox"/> ★稲作を継続する場合は移植栽培とし、直播栽培は行なわない		○		○
<input type="checkbox"/> 移植栽培では、雑草イネに有効な除草剤の体系処理と手取り除草を行なう		○		○
<input type="checkbox"/> 水稲種籾には、自家採種籾は使用しないで保証された種子を使う		○		○

注)* 対策項目の★は、特に効果が高く重要な項目

** 目的A～Dは以下の通り

A: 赤米混入被害の軽減

B: 雑草イネ種子の拡散防止

C: 初発段階での被害拡大防止

D: 今後の対策強化に活用